

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 20 日現在

機関番号：84413

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20520673

研究課題名（和文） 鎖国期日本に輸入されたヨーロッパ・マジョリカ陶器についての考古学的研究

研究課題名（英文） An archaeological investigation on the European majolica excavated in Japan, imported from Europe during the term of National Isolation in Japan.

研究代表者

松本 啓子（MATSUMOTO KEIKO）

公益財団法人 大阪市博物館協会 大阪文化財研究所・主任学芸員

研究者番号：20344377

研究成果の概要（和文）：鎖国期、17世紀後半の輸入陶器のマジョリカ・アルバレロは、寸胴形の壺で、foglie 文の葉を縦に描く。ヨーロッパには部分的に一致するものはあるが、同一型式の壺はない。foglie 文も 16 世紀後半に限られる。アルバレロは同一規格の薬壺で薬局や病院の棚に並ぶ。これらを運営するカトリック修道院からの注文品である。マジョリカ窯調査例では、アルバレロの窯の占有割合は高く、カトリックの意匠も見られることから、マジョリカ工房にとってカトリックは最上の顧客とみられる。宗教改革によるカトリック衰退に伴い、旧来のマジョリカ工房も 17 世紀に入ると廃れ、代わってカトリック色の薄い工房がオランダ語圏北部で台頭する。大坂出土品は後出の窯で注文焼成された可能性が高いことがわかった。

研究成果の概要（英文）：The European majolica albarello found from Osaka, was dated in the 2nd half of the 17th century, when was in the term of the National Isolation in Japan. In my study I saw and heard many albarelli using for medicine pots at pharmacies or hospitals in the Catholic monasteries in Europe. There found some kilns in Antwerp and Utrecht, making majolica with religious design, and they were finished until the early 17th century during the Reformation. I assume if in the early 17th some new kilns were born in Holland not dependent on the Catholic connection but familiar to the Protestant. It might be Osaka finds to be ordered to the latter type of kiln by the Japanese in the 17th century, who had known the Catholic style albarello.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	700,000	210,000	910,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野： 人文学

科研費の分科・細目： 史学・考古学

キーワード： マジョリカ陶器・鎖国・宗教改革・日欧交流史・近世考古学・ルネッサンス・ヨーロッパ考古学・国際情報交換

1. 研究開始当初の背景

鎖国下の日本にオランダ連合東インド会社がヨーロッパから請来したとされるマジョリカ陶器は、数例の伝世品と数例の出土品がある。出土品は 17 世紀後半に集中し、伝世品も鎖国以降の輸入品であることから 17 世紀末期と考えられてきた。中でも多色使いの *foglie* と呼ばれる葉文が特徴の、寸胴のアルバレルロ形壺 *albarello* が有名で、これが日本の輸入マジョリカ陶器の大半を占める。

日本の場合、縦の *foglie* 文が描かれることが特徴で、アルバレルロは茶道の水指に用いられたことが知られている。

しかし、ヨーロッパにおいて *foglie* 文は 16 世紀後半に流行するもので、縦方向の *foglie* 文は極めて稀である。アルバレルロの形態も含め、ヨーロッパで同一型式の壺は知られておらず、その産地も判明していない。

そして、研究を進めていくうちに、別の大きな問題があることに気が付いた。

マジョリカは多国間にわたって流通しているにも関わらず、各国の研究者は自国とマジョリカの本家本元のイタリアの動向についてはよく研究しているが、他国のマジョリカについては、たとえ隣国であっても、よく知らない場合があるということである。そこで、前回の科研費による調査やこれまでの研究で知り得た諸国各地のマジョリカの様子を可能な限り提示して広範囲の研究を促すことにした。これによって非常に広範囲な人とモノの動きを探ることができる考えたからである。

2. 研究の目的

そもそも、ヨーロッパの研究者は日本のマジョリカを実際に見たことがなく、出土品や伝世品があることすら知らない研究者もいる。そこで、本研究では大坂出土品のアルバレルロを実際に現地に持参して、日本の状況を説明し、ヨーロッパ各地の研究者に研究対象としての興味を持ってもらうことを最初の目的とした。そして次に、実物比較を行うことによって、類似・非類似の属性を判別し、各地のマジョリカの状況とのすり合わせを試み、これらの情報から、大坂出土品の産地を探ることが最終目的である。さらにヨーロッパ・日本両地域での社会的背景をあぶり出し、日本までの流通ルート探ってみることにした。

3. 研究の方法

まず、相手先に連絡を取り、実物比較の承諾を得たうえで、日本国内から海外への出土品持ち出しに関する諸手続きを経て、実物持参でヨーロッパに渡り、文様・形態・胎土・成形技法・焼成・色調など、各種の属性について、実物どうしの直接比較を行なった。とくに各地域の在地色の強いマジョリカとイタリアからの輸入品・模倣品を判別しながら、地域差・時期差に注意を払った。

これらの情報を総合的に分析することによって、日本のマジョリカ・アルバレルロの産地の可能性のあるマジョリカを探り、その流通ルートを検討した。あわせて、ヨーロッパ・日本両地域での当時の社会背景を探った。

今回、検討したのは、ルネッサンス期の物流の大動脈であるキリスト教巡礼街道沿いの、イタリア・フランス・ベルギー・オランダのマジョリカと、比較資料として、巡礼街道から外れた地域であるスペイン・ポルトガル・ドイツ・イギリスのマジョリカである。

4. 研究成果

(1) はじめに

先にも述べたように、大坂出土のマジョリカ陶器は寸胴の胴部に二色に塗り分けた縦の葉文が描かれた、アルバレルロと呼ばれる壺である(図1)。同様の壺は茶道の水指として伝世し、また将軍墓・城郭・富裕な商人の屋敷・出島から出土し、17世紀後半に上流層に流通したことが窺える。ところが、ヨーロッパでは日本の伝世品・出土品の特徴である寸胴・縦の葉文 *foglie* の組合せの壺は見られない。

本研究では文様の比較からその製作地を探ってみた。



図1 大坂出土品

(2) ヨーロッパの文様との比較

foglie 文はイタリアからヨーロッパ各地に広まったとみられるが、どの地域でも青単色の絵付けが多く、多色使いのものはあまり多くない。日本の *foglie* 文のように青で太めの輪郭を描き、中を黄色と青色で塗る *foglie*

文は、16世紀後半のリヨンとアントワープに見られる(図2)。だが、これらは日本のものほど写実的ではなく、むしろ後出のデフォルメしたもののようにみえる。写実的な葉の表現は青単色のマジョリカにあり、これらは17世紀代にも引き続き各地で製作される。

Polychrome foglie motives in Troyes, Lyon, Antwerp



図2 リヨン、アントワープのマジョリカ

1632年に埋葬された徳川秀忠の墓から出土したアルバレルロは *foglie* 文ではなく、幾何学文が描かれている。これは Dr.Korf 博士の研究によると、オランダでは16世紀末～17世紀前半の意匠で、秀忠埋葬の時期とほぼ同じ時期である(図3)。こういった幾何学文のマジョリカはオランダのみならずベルギーやドイツでもほぼ同時期に作られている。また、幾何学文のアルバレルロは17世紀半ば～後半の肥前の長吉谷窯などに磁器の模倣品があり、このことから日本に輸入された時期が鎖国開始頃か少し後であるこ

とが窺える。

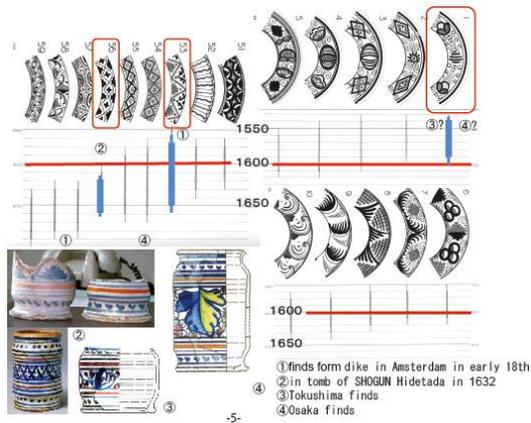


図3 マジョリカの文様の変遷

ところが、日本のマジョリカの主流である foglie 文のアルバレルロは、秀忠埋葬の時期を遡らない。つまりヨーロッパの foglie 文とは 50~100 年程の開きがあることになる。

(3) キリスト教とマジョリカの関わりから

日本は当時、カトリックを嫌う鎖国期で、ヨーロッパ製品はプロテスタントのオランダ連合東インド会社 V.O.C. から調達したと考えられる。一方、当時のヨーロッパは宗教改革の真っただ中で、カトリックとプロテスタントが拮抗する中、マジョリカ陶器はカトリック教会と強く結んでいたことが、出土例・伝世例、文献などの資料から窺える。その端的な例がキリストを表す I・H・S モノグラムで、カトリック・イエズス会がシンボリックに使い、マジョリカにも描かれる (図 4)。

Osaka finds



図4 IHS モチーフ両耳碗と大坂出土品

イタリア・トスカーナのサンタフィーナ修道院やフランス・トロワのオテルデュー修道院の薬局のように、アルバレルロは同一規格品が各種薬の保管壺として薬局や病院の棚にズラリと並ぶ (図 5)。



図5 サンタフィーナ修道院とオテルデュー修道院薬局のアルバレルロ

その薬局や病院は修道院の慈善事業から発祥したものである。ちなみに修道院はプロテスタントにはない。焼成前にすでに中に入れる薬の名が胴部に書かれていたり、納品先の修道院の紋章が描かれた同一規格品が大量に焼成されているなど、アルバレルロは、当初から納品先や使用法が決まっており、大量の一括注文品であった。本来「置く壺」で、二次的な移動がほとんどないアルバレルロは、注文主が最終消費者と考えられる。また、アルバレルロ一個が窯の中で占めるの容積の割合は大皿一個よりも大きく、各窯の大き

さがほぼ一致することからみて、一個当たりの焼成単価はアルバレルロのほうが高いことになる。

薬剤も含め、当時の物流はカトリックによるところが大きく、資金力があり、大量にアルバレルロを注文するカトリック修道院は、大得意様であったことは想像に難くない。

ところで、アントワープやユトレヒトで見つかったマジョリカ窯は 16 世紀後半に操業し、17 世紀初頭には廃業してしまっている。宗教改革の中、17 世紀初頭になるとプロテスタント優勢地域は相対的にカトリックが劣勢となり、アントワープやユトレヒトのマジョリカ工房もこれに連動して衰退したものと思われる。

だが、ユトレヒトではオランダ連合東インド会社 V.O.C. と結びつく 17 世紀の破片の出土がある。V.O.C. 外洋帆船を描く皿である (図 6)。



図 6 Neude 出土の皿

(Erfgoed Gemeente Utrecht 提供)

カトリックに留まったアントワープ、プロテスタントで立ち上がったユトレヒト、こういった地域を渡り歩いたマジョリカ陶工がいたのではないだろうか。プロテスタントの V.O.C.、カトリックを嫌った徳川幕府、できるだけカトリック色を見せないようにして

でも前世紀型のマジョリカを輸入したかった商人や茶人、そういった各人の思惑の中に、大坂出土品誕生の鍵があるように思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

- ① 松本啓子 2014、「鎖国期のヨーロッパ・マジョリカについて」：『高倉洋彰先生退職記念論文集』、頁未定(総 20 頁)、査読なし
- ② 松本啓子 2010、「鎖国期のヨーロッパ陶器をめぐって」：榮原永遠男編『日本古代の王権と社会』、塙書房、pp.473-491、査読あり
- ③ 松本啓子 2008、「近世大坂で出土したヨーロッパの陶器の話」：大阪市文化財協会編『大阪遺跡』、創元社、pp.250-251、査読なし

〔学会発表〕(計 4 件)

- ① 松本啓子 2012、「鎖国期日本に輸入されたヨーロッパ・マジョリカ陶器についての考古学的研究」：日本考古学協会第 78 回総会、立正大学、2012 年 5 月 27 日
- ② 松本啓子 2010、「出土資料からみた近代「大大阪」の礎」公立大学法人大阪市立大学・財団法人大阪市博物館協会包括連携協定締結記念 平成 23 年度第 40 回市民講座『近代大阪のまち・ひと・くらしー大阪に再び天守閣が建った時代ー』、招待講演、2011 年 10 月 21 日
- ③ 松本啓子 2010、「鎖国期のヨーロッパ・マジョリカ陶器をめぐってー近世大坂・鎖国直後のアルバレルロ形壺ー」：日本考古学協会第 76 回総会、国士舘大学、2010 年 5 月 23 日
- ④ 松本啓子 2008、「日本出土のヨーロッパ・マジョリカ陶器についての考古学的研究」：日本考古学協会第 74 回総会、東海大学、2008 年 5 月 25 日

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本 啓子 (MATSUMOTO KEIKO)

公益財団法人 大阪市博物館協会・大阪文

化財研究所・主任学芸員

研究者番号：203443477

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：